



# MAISON JOSEPH DROUHIN NEWS

～メゾン・ジョゼフ・ドルーアン ブルゴーニュ現地ニュース～

from France Bourgogne

みなさん、こんにちは。

ブルゴーニュはすっかり春めいて桜がちょうど見ごろとなっています。そろそろ畑作業も本格化するかな？と思ってフィリップさんにお話をうかがってきました。

「ああ、残念でしたね。この時期、ビオディナミはまだ何の作業も出来ないんです。もうちょっと気温が上がって（ちなみに4月上旬のポーヌの気温は18℃くらい）、雨が降って土が湿ってからですね。」

どうして今じゃグメなんですか？

「気温が低すぎたり土が湿っていなかったりすると、せっかくの成分を土がキャッチできないんです。畝に雑草が生えそうなタイミングまで待たなくては。」

あらあら...。今年のフランスは水不足ですし。いつくらいから始められそうですか？

「4月20日くらいから始められると思います。一番最初の準備は500番といって牛糞を詰めた牛の角を地中に埋めていたもので、土に活力を与えます。その後、水晶の粉末を雨水に溶いた502番を撒きますが、これは植物が太陽を享受するのを助けてあげるプレパレーションなので、まだ先のことですね。」

では今やっていることは？

「うーん。何とかお答えしたいところですが、特にはないですね。」

植え替えとか、計画されていますか？

「もうちょっと先に計画しています。今年はちょっと新しい実験を試みたいのですが、その後実際に取り入れるか分からないし、現段階では秘密ってことでしょうか（ここでフィリップさんはいたずらっぽくニヤリと笑いました）。」

いつくらいに公表できそうですか？

「5月末か6月頭かな。今年はちょっとあるモノを畑に蒔いてみよう思っていてね...（フィリップさん、そこまで話したら秘密じゃないような気もするのですが）」

いつも新しいアイデアを温めているんですね、と感想を述べてみるとちょっと嬉しそうですね。今度は5月末にひっそり潜入してみます。



【フィリップ・ドルーアン氏】



【4月上旬の畑】



【新芽】

お話をうかがった後、クロ・デ・ムーシュの畑に行ってみました。

ご覧ください！この満開の桜を！

その前には散歩中の老夫妻がちょうど休憩していました。ポーヌとヴォルネイの畑の中を散歩する15kmのコース（散歩というよりハイキング！？）のちょうどいい休憩ポイントなんだそうです。

「あなた、ドルーアンの仕事しているの？それは運がいいことだね。私は40年もの間、定年退職するまでワインの仕事をしてきたから、どのメゾンが頑張っているか知っているよ。ドルーアンはトップなんだ。」

世間話をしている間にも、犬の散歩をしている親子連れが「ボンジュール」と挨拶しながら通っていきます。

地元の人にも愛されているクロ・デ・ムーシュなんですね。

【クロ・デ・ムーシュの満開の桜】



# MAISON JOSEPH DROUHIN NEWS

～メゾン・ジョゼフ・ドルーアン ブルゴーニュ現地ニュース～

*from France Bourgogne*

## ドルーアン社エステートマネージャー フィリップさんのお奨めワイン！

メゾン・ジョゼフ・ドルーアン / ボーヌプルミエ・クリュクロ・デ・ムーシュブラン  
Maison Joseph Drouhin / Beaune Premier Cru "Clos des Mouches" Blanc



「個人的にはピュリニーの1級とシャサーニュの1級の間的なワインだと思っています。凝縮感がありふっくらと豊満ですが行き過ぎない。ハーモニーがあって上品なんです。お料理に合わせるならソースを添えた魚料理ですね。特に味がしっかりとした魚。他には手長エビとかオマールなどによく合います。

え？誰が料理するのかって？僕は弟のフレデリック（お料理が趣味）と違うから自分じゃ出来なくて…。彼は昔から料理が好きでしたしね。僕はレストランか家で作ってもらいます（笑）。」

参考上代価格：¥13,000      Vintage：2009

